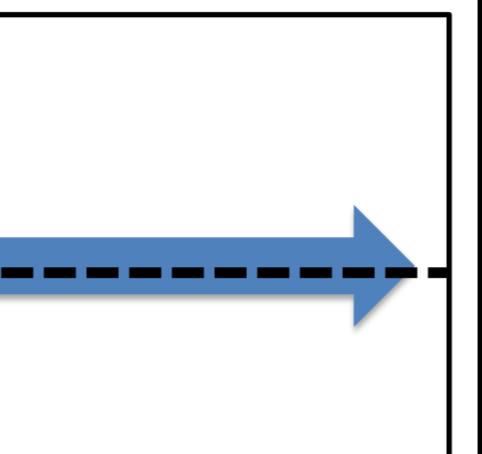
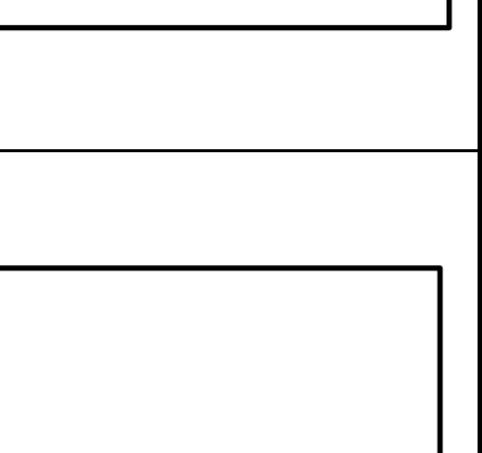
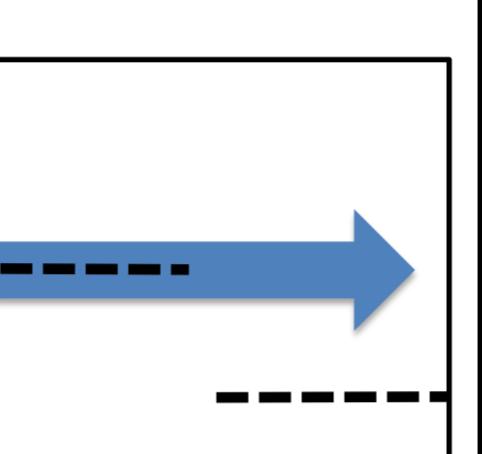
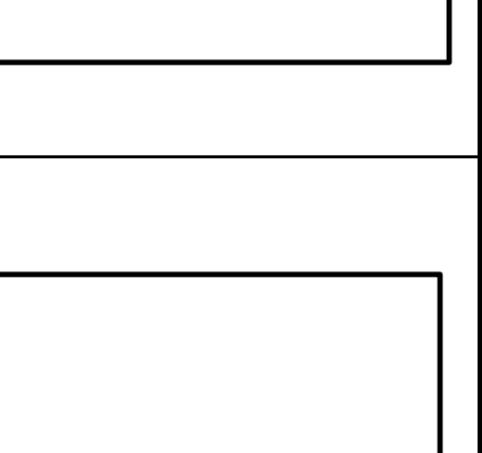
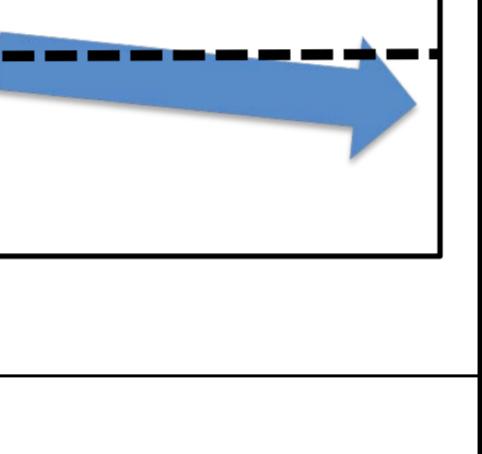
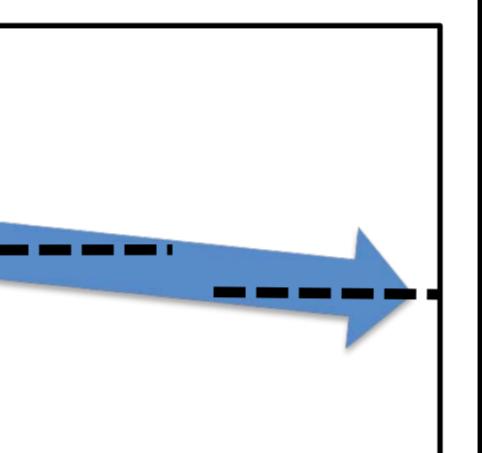
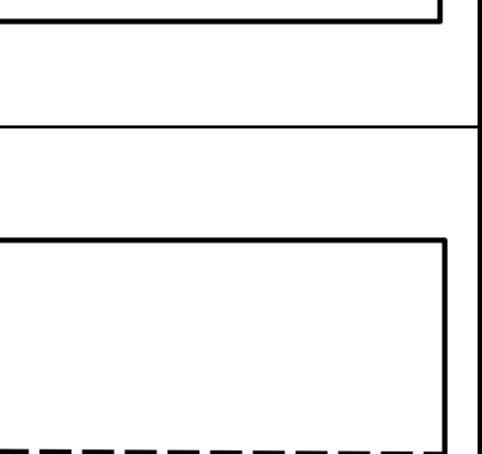
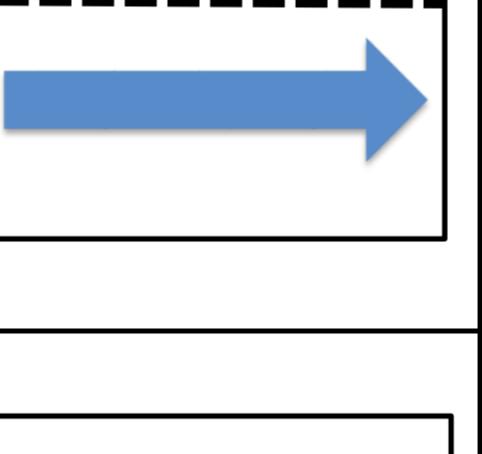
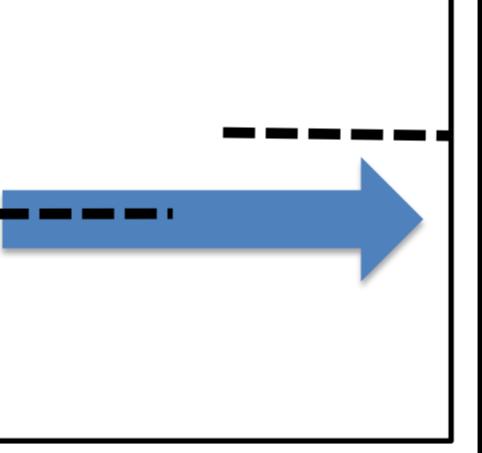
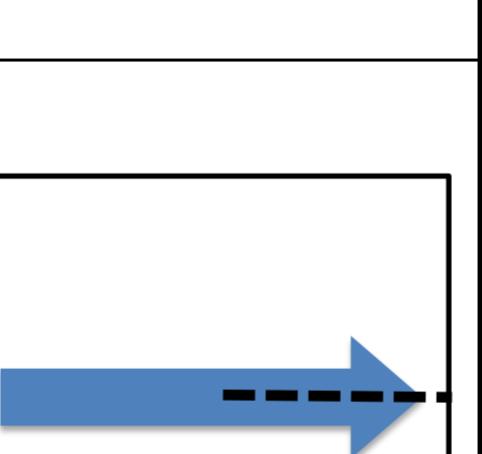
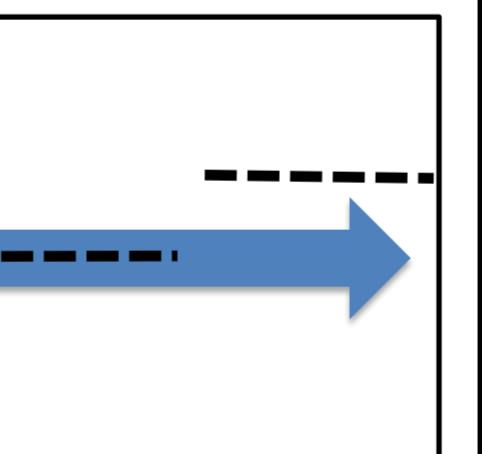
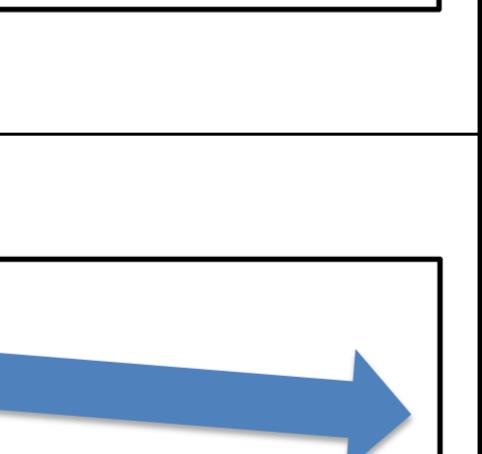
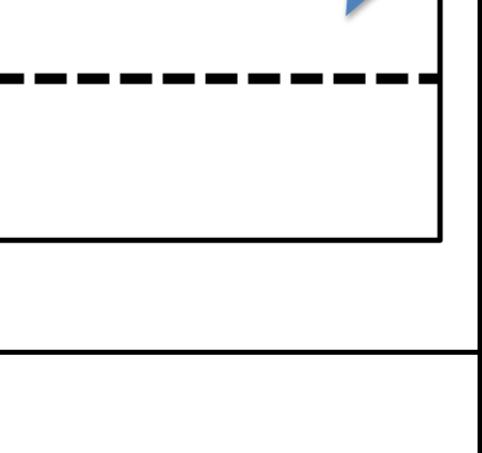
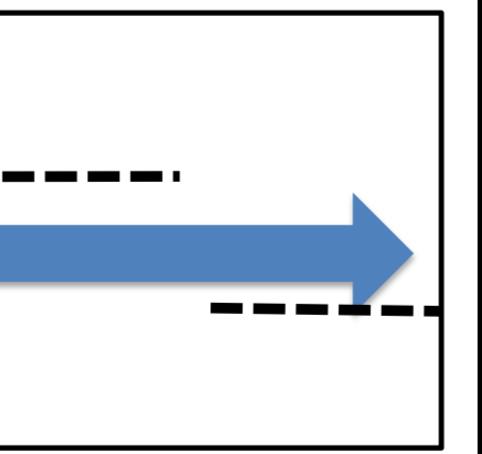
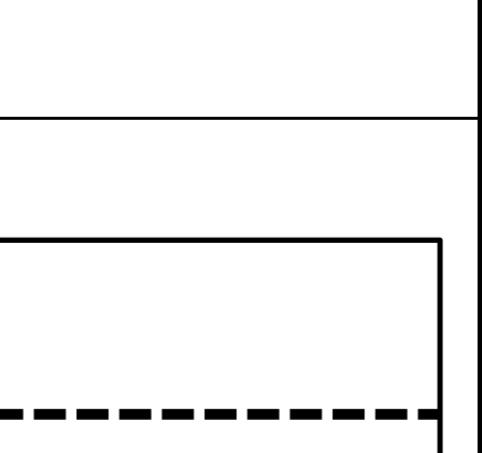
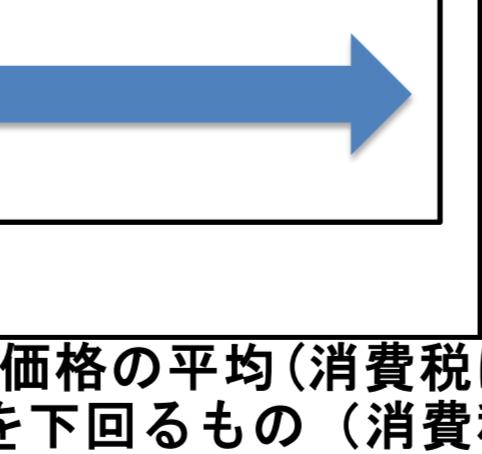
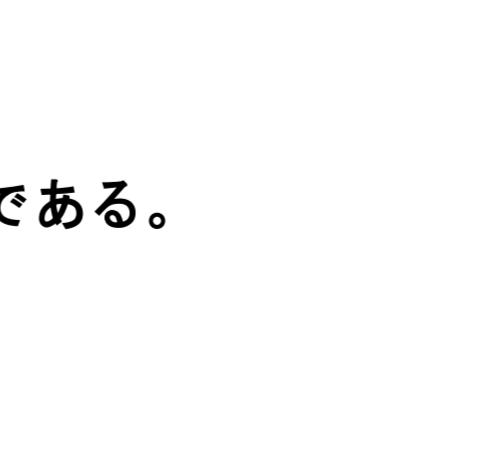


野菜の需給・価格動向レポート(平成29年10月3日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	8月の価格情報		9月の価格情報		10月の価格情報		9月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量() 内は、本年と過去3カ年平均との比率	主産地	生育及び価格の10月中旬までの見通し	※レポートの読み方については、注意書きを参照してください					
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格					「図の見方」					
	下旬	上旬	下旬	中旬	旬別平均販売価額	平均価格				現時点の価格水準	見通しの価格水準	平均価格			
葉茎菜類	キャベツ	74.19	88 (119%)	74.19	82 (111%)	95 (128%)	74.19 · 12,685t (104%)	群馬(60), 茨城(13)		群馬産は、好天により、生育は順調で、大玉比率も高いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、本格出荷は10月中旬頃と見込まれるが、生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。					
		88.91	93 (105%)	88.91	88 (99%)	98 (110%)	88.91 · 4,755t (103%)	群馬(55), 長野(21)		群馬産及び茨城産の出荷は平年並みと見込まれることから、市場では不足感もなく、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。					
	たまねぎ	93.34	74 (79%)	93.34	71 (76%)	69 (74%)	93.34 · 6,941t (97%)	北海道(95)		北海道産は、収穫作業は順調で、北見等の台風の被害も軽微なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。					
		93.34	74 (79%)	93.34	72 (77%)	69 (74%)	93.34 · 3,029t (106%)	北海道(87), 兵庫(12)		北海道産の出荷は引き続き平年並みと見込まれるが、7月から続く安値基調により、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。					
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	287.00	323 (113%)	287.00	294 (103%)	294 (102%)	136.25 · 2,419t (104%)	青森(24), 秋田(18), 北海道(17)		青森産は、台風の影響は軽微で、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。秋田産は、台風の被害もなく、生育は概ね順調ではあるが、稲刈りとの農作業が重なり、収穫作業の遅れが見込まれることから、現在平年並みの出荷は、今後は平年より少なめの出荷の見込み。北海道産は、一部産地で台風の被害がでており、品質への影響が懸念されるものの、影響は軽微なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。					
		487.13	433 (89%)	487.13	476 (98%)	491 (101%)	467.01 · 214t (117%)	香川(18), 徳島(18), 高知(12), 奈良(12), 三重(12), 大阪(9)		秋田産の出荷が少なめと見込まれるもの、青森産及び北海道産の出荷が平年並みと見込まれ、10月から平均価格の水準が下降することから、現在平均並みの価格は、平均を上回って推移する見込み。					
	はくさい	81.96	104 (127%)	81.96	107 (130%)	110 (134%)	81.96 56.81 · 5,894t (99%)	長野(70), 茨城(15)		長野産は、高冷産地では9月の曇天の影響で生育が緩慢になっているものの、南佐久等の二毛作産地では、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。					
		88.72	105 (118%)	88.72	107 (120%)	111 (125%)	88.72 69.44 · 3,605t (106%)	長野(95)		長野産の出荷は平年並みと見込まれるもの、後続産地の関東産が前進気味の出荷となっていることや、9月下旬の気温高による需要減なことから、現在平均並みの価格は、今後は平均を下回って推移する見込み。					
	ほうれんそう	583.95	733 (126%)	583.95	829 (142%)	639 (109%)	385.11 · 611t (128%)	群馬(33), 茨城(22), 栃木(16)		群馬産及び茨城産は、生育及び品質は概ね良好で、10月中旬頃の出荷ピークに向け、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、8月までの天候不順による生育不良から一部ほ場で細株がみられるものの、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。					
		670.86	757 (113%)	670.86	821 (122%)	778 (116%)	461.74 · 234t (103%)	岐阜(66), 北海道(10)		群馬産、茨城産及び栃木産の出荷が平年並みと見込まれ、中旬からは秋冬作産地の市場への入荷増の見込みもあることから、現在平均並みの価格は、10月から平均価格の水準が下降することから、平均並みで推移する見込み。					
果菜類	レタス (結球)	158.27	145 (92%)	158.27	176 (111%)	142 (90%)	158.27 · 5,628t (115%)	茨城(60), 長野(26)		茨城産は、8月の曇天雨で黄変などがみられたほ場があったものの、9月の好天により生育も順調なことから、現在平年並みの出荷は、今後の天候次第ではあるが、やや多めの見込み。長野産は、夜温の低下により生育が緩慢になっているものの、病害等も特になく、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。					
		152.57	155 (102%)	152.57	189 (124%)	146 (96%)	152.57 · 1,897t (130%)	茨城(32), 長野(26), 兵庫(23), 長崎(12)		長野産の出荷は平年並みと見込まれるもの、茨城産はやや多めと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。					
	きゅうり	221.22	340 (154%)	221.22	339 (153%)	265 (120%)	289.03 · 5,238t (123%)	埼玉(29), 群馬(26), 福島(11), 茨城(11)		埼玉産は、天候に恵まれ、品質も良好なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、8月の天候不順による生育遅れがあったものの、現在の好天により生育は回復していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福島産は、8月の長雨、日照不足により出荷がずれ込み、現在は多めの出荷となっているものの、一時的であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。					
		232.80	341 (146%)	232.80	338 (145%)	287 (123%)	298.96 · 1,410t (116%)	群馬(21), 北海道(17), 宮崎(17), 大阪(11), 福島(11)		埼玉産、群馬産及び福島産が平年並みと見込まれるが、10月から平均価格の水準が上昇することから、現在平均並みの価格は、平均を下回って推移する見込み。					
	トマト (大玉)	252.46	351 (139%)	252.46	459 (182%)	381 (151%)	347.41 · 5,459t (117%)	千葉(16), 福島(15), 熊本(11), 茨城(11), 青森(10)		千葉産は、抑制制作が順調な出荷となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福島産は、7月までの前進出荷や9月に入つてからの天候不順により小玉傾向となっていることから、引き続き平年より少なめの見込み。					
		298.46	355 (119%)	298.46	460 (154%)	432 (145%)	371.67 · 2,036t (117%)	岐阜(23), 熊本(22), 北海道(19), 岩手(11)		千葉産及び福島産の出荷が平年並み、熊本産の出荷は平年より少なめと見込まれることに加え、現在の価格を維持するも、10月から平均価格の水準が上昇することから、現在平均を上回っている価格は、平均並みで推移する見込み。					
	なす	230.51	291 (126%)	230.51	345 (150%)	359 (156%)	301.00 · 2,504t (117%)	高知(31), 栃木(21), 群馬(19)		高知産は、台風の被害等で出荷量が減少しているものの、一時的であることから、今後は平年並みの出荷に回復する見込み。栃木産は、台風の影響により、スレ果など品質に影響が出ているものの、影響は軽微であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、天候に恵まれ、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。					
		232.81	257 (110%)	232.81	297 (128%)	300 (129%)	263.21 · 822t (100%)	高知(25), 山梨(18), 熊本(14), 徳島(9)		高知産の出荷は平年並みに回復し、栃木産及び群馬産の出荷も平年並みと見込まれることに加え、市場では高値疲れ感があり、現在の価格を維持するも、10月から平均価格の水準が上昇することから、現在平均並みの価格は、平均を下回って推移する見込み。					
	ピーマン	263.58	374 (142%)	263.58	353 (134%)	353 (134%)	263.58 · 1,309t (110%)	茨城(54), 岩手(24)		茨城産は、台風被害もなく、生育及び品質は良好なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。岩手産は、8月までの天候不順により草勢が弱くなる等、出荷減となっていたものの、現在は好天により生育は回復していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。					
		296.27	369 (125%)	296.27	358 (121%)	364 (123%)	296.27 · 500t (121%)	青森(25), 茨城(16), 兵庫(9), 高知(8), 大分(8)		茨城産及び岩手産が平年並みと見込まれ、東北産が引き続き出荷残があることから、現在平均を上回っている価格は、平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。					
根菜類	だいこん	94.60	83 (88%)	94.60	92 (97%)	103 (109%)	67.55 · 4,654t (89%)	北海道(37), 青森(34)		北海道産は、一部産地で7月の天候不順の影響で播種が遅れた地域があるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。青森産は、8月の曇天雨による生育の遅れから、引き続き平年より少なめの見込み。					
		95.37	74 (78%)	95.37	87 (92%)	103 (108%)	76.48 · 1,870t (87%)	北海道(36), 石川(32), 岩手(10), 青森(10), 新潟(8)		北海道産の出荷が引き続き平年並み、青森産の出荷が少なめと見込まれるが、後続産地の関東産の生育が順					

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	8月の価格情報		9月の価格情報		10月の価格情報		主産地	「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準 平均価格 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。
	(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	指定野菜の間 隔・近畿 ブロック平均 販売価額	(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	指定野菜の間隔・近畿 ブロックの入荷量 内は、本 年と過去3年 平均値との比率	9月中旬の関東 及び近畿ブロッ クの入荷量 内は、本 年と過去3年 平均値との比率			
	下旬	上旬	中旬					
いも類	さといも	254.79 (148%)	377 (123%)	254.79 (115%)	313 (123%)	293 (115%)	220.97 ・457t (110%)	埼玉(51), 千葉(27)
		220.11 (123%)	270 (108%)	220.11 (163%)	359 (131%)	289 (102%)	217.56 ・91t (122%)	愛媛(56), 福井(10), 中国(10)
	ばれいしょ	111.77 (108%)	121 (102%)	111.77 (92%)	114 (84%)	103 (81%)	96.99 ・4,200t (108%)	北海道(99)
		111.77 (98%)	110 (84%)	111.77 (81%)	94 (84%)	90 (81%)	96.99 ・1,608t (85%)	北海道(100)

注：1 平均価格は、過去6ヶ月（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。

2 単別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

3 単位は円/k g、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（）内は入荷シェアで平成28年実績である。

5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況（特定野菜）

種類	8月の価格情報		9月の価格情報		10月の価格情報		主産地	「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準 平均価格 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。
	(参考) 過去5カ年 平均価格	東京都・ 大阪市の 旬別価格	(参考) 過去5カ年 平均価格	東京都・ 大阪市の 旬別価格	(参考) 過去5カ年 平均価格	9月上旬の東京 都及び大阪市場 の入荷量 内は、本 年と過去3年 平均値との比率		
	下旬	上旬	中旬					
洋菜類	プロッコリー	386.86 (133%)	513 (108%)	485.78 (98%)	527 (98%)	476 (98%)	408.61 ・507t (139%)	北海道(23), 埼玉(20), 米国(12), 長野(11)
		404.47 (127%)	512 (117%)	453.84 (113%)	532 (113%)	512 (113%)	424.92 ・175t (170%)	北海道(23), 長野(19), 米国(18), 徳島(10)
根菜類	ごぼう	295.61 (128%)	379 (126%)	268.33 (126%)	338 (116%)	311 (116%)	252.90 ・298t (97%)	青森(65), 茨城(12)
		173.09 (123%)	213 (124%)	175.79 (118%)	218 (118%)	207 (118%)	173.20 ・195t (102%)	青森(35), 茨城(27), 北海道(21)
果菜類	かぼちゃ	175.73 (133%)	234 (117%)	151.49 (99%)	178 (99%)	150 (99%)	135.51 ・1,371t (102%)	北海道(98)
		157.90 (104%)	165 (102%)	129.22 (99%)	132 (99%)	128 (99%)	125.57 ・479t (78%)	北海道(82)

注：1 平均価格は、過去5年（平成24～28年）の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。

2 単別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/k gである。

3 単別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（）内は入荷シェアで平成28年実績である。

2 野菜の輸入動向 一 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について 一

○輸入について		野菜の輸入数量		野菜の輸出数量		主な生鮮野菜の輸出先(平成29年8月)	
		野菜全体の輸入量(平成29年8月)		野菜全体の輸出量(平成29年8月)		(単位:トン、%)	
		区分	平成27年 前年比	平成28年 前年比	平成29年8月 前年同月比	平成29年1~8月 前年同期比	
野菜の輸入について		生鮮野菜	826,845 93	862,416 104	56,856 97	610,120 110	
8月の輸出量は、野菜全体では2,115万5千トン（同99%）とわずかに減少した。		加工野菜	1,752,337 98	1,768,892 101	157,852 100	1,265,552 108	
このうち、中国産の輸入数量は合計で1万6千トン（同102%）と、輸入量の54%を占めた。		野菜合計	2,579,182 97	2,631,308 102	214,708 99	1,875,672 109	
なお、主な生鮮野菜のうち、特にばれいしょの輸入量が大幅に増加しているのは、例年、加工業務用の輸入は2月から6月に行われるものの、昨年の天候不順の影響による国産原料の不足感から、後ろ倒しでの輸入になったものである。		うち中国産野菜合計	1,355,491 96	1,365,785 101	115,842 102	935,394 110	
○輸出について		中国産シェア	53	52	54	50	
8月の輸出量は、野菜全体では2,332トンと、前年同月を大幅に上回った（前年同月比124%）。生鮮野菜が1,233トン（同124%）、加工野菜が1,100トン（同123%）と、どちらも前年同月をかなり大幅に上回った。		野菜の輸入数量	野菜の輸出数量	主な生鮮野菜の輸出先(平成29年8月)			
輸出量が前年を大幅に上回ったキャベツ等（ブロッコリー、はくさいを含む）については、台湾へのはくさいの主たる輸出国の天候不順により、国産の引合いが高まり、増加したとみられる。		野菜全体の輸入量(平成29年8月)	野菜全体の輸出量(平成29年8月)	(単位:トン、%)			
		区分	平成27年 前年比	平成28年 前年比	平成29年8月 前年同月比	平成29年1~8月 前年同期比	
		生鮮野菜	22,992 240	31,867 139	1,233 124	7,322 36	
		加工野菜	9,510 121	11,101 117	1,100 123	6,816 104	
		野菜合計	32,502 186	42,968 132	2,332 124	14,138 52	
		野菜の輸入数量	野菜の輸出数量	主な生鮮野菜の輸出先(平成29年8月)			
		輸出合計	1位	2位	3位		
		区分	前年比	前年比	前年比		
		キャベツ等	646 552	台湾 香港	589 37	シガボール タイ	
		ながいも	260 50	台湾 米国	118 98	シガボール タイ	
		きのこ(その他、はらたけ属以外)	100 72	台湾 香港	61 24	タイ	8
		野菜の輸入数量	野菜の輸出数量	主な生鮮野菜の輸出先(平成29年8月)			
		輸出合計	1位	2位	3位		
		区分	前年比	前年比	前年比		
		キャベツ等	117 61	台湾 香港	39 9	シガボール タイ	
		ながいも	525 244	台湾 米国	232 228	シガボール タイ	
		きのこ(その他、はらたけ属以外)	139 98	台湾 香港	21 25	タイ	15
		野菜の輸入数量	野菜の輸出数量	主な生鮮野菜の輸出先(平成29年8月)			
		輸出合計	1位	2位	3位		
		区分	前年比	前年比	前年比		
		キャベツ等	46 37	香港 シガボール	9 34	シガボール タイ	
		ながいも	541 279	台湾 米国	228 228	シガボール タイ	
		きのこ(その他、はらたけ属以外)	117 76	台湾 香港	25 14	タイ	14
		野菜の輸入数量	野菜の輸出数量	主な生鮮野菜の輸出先(平成29年8月)			
		輸出合計	1位	2位	3位		
		区分	前年比	前年比	前年比		
		キャベツ等	46 37	香港 シガボール	9 34	シガボール<br	